（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成　20年12月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201628		
法人名	有限会社　ミニヨンプレイス		
事業所名	グループホーム　あいの里東倶楽部		
所在地	札幌市北区あいの里3条7丁目5-7 （電　話）011-778-6767		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月26日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】（　20年12月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　15年　12月　10日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　6　人
職員数	6 人	常勤　5人，　非常勤　1人，　常勤換算　5.2人

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	2 階建ての　1 ～2　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000～46,000　円		その他の経費（月額）	光熱水費20,000円 暖房費（11～3月）8,000円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	350　円	昼食	400　円
	夕食	450　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（　12月　1日現在　）

利用者人数	6 名	男性　2 名	女性　4 名
要介護１		要介護２	2
要介護３	3	要介護４	1
要介護５		要支援２	
年齢　平均　84.2 歳		最低　81 歳	最高　86 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	いけだクリニック、みとべ歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあいの里東倶楽部は、札幌市郊外の閑静な住宅地に位置する、住宅改造型の定員6人のグループホームである。設立者でもある管理者が、特別養護老人ホームでの長い介護経験を踏まえて、旧知の医療･福祉関係者の手厚い支援を得ながら、高齢者支援への思いをこめて創設した事業で、家族ぐるみの運営で、家庭的で明るく、暖かな雰囲気の生活を築いている。創設の当初から地域との結びつきを重視した理念を掲げ、町内会、地域住民と深く関わり、小中学校とは総合学習や学校施設利用などで相互に援助しあう関係を築くなど、活発で多彩な地域交流を展開している。管理者および職員相互の信頼関係は良好で、離職がほとんどない、安定した介護環境を形成している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回は、重度化および終末期に対する指針作成、地域との一体的防災訓練実施が改善課題であった。重度化および終末期に対する指針は、利用者、家族に説明して同意を得てはいるが、文章化することが更なる課題である。地域と共同の防災訓練は既に実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	前年の評価の結果を再確認したうえで、事務局長を中心に職員が話し合い、自己評価を作成した。その中で日常の業務を見直し、意義を再認識し、業務の改善に反映させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	会議は2ヶ月に1回開かれ、地域包括支援センター担当者、町内会役員、協力医療機関の医師、精神保健福祉相談員、家族、利用者と施設職員がメンバーとなって、ホームの活動状況、利用者の健康状態、生活ぶり、防災協力などについて話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	苦情受付・処理要領は文書に明記し、入居契約時に家族に説明している。日ごろ家族との面会時、電話や手紙を送る際など、事あるごとに苦情や意見、要望を聞き出すように努めている。出された意見や苦情は職員にも周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に所属し、周辺美化活動、夏祭りなどに参加し、除雪、共同防災マップ、防災訓練に共同参画し、ごみ集積所の管理清掃を引き受け、住民の相談窓口になるなどして連携している。中学校が中心になって推進する多様な地域づくりの活動にも参加している。小・中学校とは、総合学習での来訪や、利用者の学校訪問、手紙のやり取りなどの交流がある。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設の当初、創設者でもある管理者が、長い高齢者介護施設での介護経験から得た教訓をもとに、職員とも話し合いながら、認知症高齢者の幸せな生活づくりと地域との支えあいを目指した、独自の理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内の玄関、事務所、スタッフルームに掲げられ、職員の身分証明書の裏にプリントされて、名札入れに差し込まれるなどして、周知が図られている。日常業務の中で管理者は折に触れて理念を喚起し、職員は理念をよく認知している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に所属し、周辺美化活動、夏祭り、除雪、共同防災マップ、防災訓練に共同参画するなど多方面でのつき合いをしている。地域づくりの活動にも参加して活動している。小・中学校とは、総合学習での来訪や、利用者の学校訪問、手紙のやり取りなどの交流がある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価の結果を再確認したうえで、事務局長を中心に職員が話し合い、自己評価を作成した。その中で日常の業務を見直し、意義を再認識し、業務の改善に反映させている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開かれ、地域包括支援センター担当者、町内会役員、協力医療機関の医師、精神保健福祉相談員、家族、利用者と施設職員がメンバーとなって、ホームの活動状況、利用者の健康状態、生活ぶり、防災協力などについて話し合われている。	○	運営推進会議では、自己評価および外部評価についても議題に取り上げることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市グループホーム管理者会議、北区のグループホーム協議会に参加して市・区の担当者と交流している。また、札幌市の介護保険課とはキャラバンメイトの普及活動で相談するなど、連携関係を作っている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の広報誌「めーる・あいの里東倶楽部」を発行してホームの活動や生活ぶりを知らせ、職員の異動があれば掲載している。個人別に写真と手紙、預かり金の収支台帳コピーと領収書を送付している。健康状態に異変があればその都度知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付・処理要領は文書に明記し、入居契約時に家族に説明している。日ごろ家族との面会時、電話や手紙を送る際など、事あるごとに苦情や意見、要望を聞き出すように努めている。出された意見や苦情は職員にも周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員とのコミュニケーションを密にし、管理者の長年の経験をもとに職員の意欲を高める工夫をするなどして離職を防いでいる。最近離職の事例はほとんどないが、あった場合には、利用者にはいきなり知らせるのではなく、徐々に受け容れてもらえるような配慮をしてダメージを防いでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常介護業務の中で管理者が実技や接遇などの指導をして職員の技能向上に努めている。職員に研修会や参考書などを紹介して自己研鑽を奨励している。各職員に年間1回程度、事業所指示で外部研修を受けさせている。所定の勤務歴のある職員には介護福祉士の資格取得を勧奨している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道、札幌市のグループホーム管理者会議、北区のグループホーム管理者連絡会を通じて同業者と交流している。また近隣の同業者とは個別に連絡を取りあって情報交換などを行っている。こうした情報は一般職員にも伝えているが、一般職員も交流に参加できる機会も作りたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に出来る限り本人と家族がホームに来訪することを奨めている。予め本人や家族の要望を聞き、馴染みやすい方法を提案している。入居の当初は、担当職員を配置して集中的に理解を深める。また、使い慣れた家具類を持ち込むことで馴染みを促進することもある。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や食事関連その他の家事に利用者も参加し、家族のように支えあう関係を築いている。職員が気落ちしているときなどは利用者が敏感に気づいて慰めてくれる。テレビドラマを見ながら利用者の思い出話に職員共々喜びや悲しみを共にすることもある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から聞いた生活歴や家族関係などの情報、家族がセンター方式のアセスメントに補充する形で記述した意向、職員がホームでの日常生活の様子やお世話への反応などから読み取った本人の心情や意向などをもとに、暮らし方の希望、意向を把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、本人、家族から生活歴などを聞き取り、かかりつけ医からの医療情報、担当のケアマネジャーからの基本情報や経過記録を基に、管理者が原案を作成している。原案を基に計画作成担当者、職員とでミーティングを行い、介護計画を作成し本人には、分かり易い言葉で説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期の見直しをしている。介護日誌や朝夕の申し送り、ミーティングの記録などを基に介護計画の評価をしている。また、入退院による身体機能の変化や精神症状に応じて本人、家族の意向を踏まえ、随時の見直しをし、本人、家族に説明をしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別に医療機関への通院介助や買物などの外出介助を行っている。また、介護保険に関するサービス利用の手続き方法などについて、地域の人々からの相談に応じている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続受診が可能であることを説明し、通院の介助をしている。医療機関に生活の様子を伝え、本人が適切な医療を受けることができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用契約時に、本人、家族に医療行為が必要となった場合は、入院となることを説明している。また、家族が希望する医療機関などの確認を行っているが、事業所の方針は、口頭での説明に留まっており文章化するまでには至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針を文章化することができるよう、期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	関係作りをするための親しみを込めた呼び方には家族の了解を得ている。また、居間で申し送りなどを行う場合は、氏名や排泄に関する言葉を暗号化することでプライバシーに配慮をしている。面会簿は、職員が記録し個人情報の文書は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方については、会話の中でさりげなく訊くようにしている。他の利用者との調整を図り、一人ひとりのペースに沿うことができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事務局長が利用者の希望を取り入れ、旬の食材に配慮して献立を作成している。利用者が育てた畑の収穫物や地域の人々からの頂き物を利用することもある。野菜を切る、味付けをする、お盆を拭くなど一人ひとりの力に応じた役割を持っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を目標としている。以前、拒否があった時にその利用者の出身地の温泉の入浴剤を使うことで、入浴が可能となったという介護経験があり、それを活かして現在も各地の入浴剤を用意し入浴を楽しんでいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機をかける、拭き掃除をする、畑で野菜を作る、カーテンを閉める、来客を知らせるなどの役割をもって生活をしている。ピアノやギターに合せて歌を歌う、タンバリンで演奏する、季節ごとに壁面の飾りを作るなどの楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、近隣の公園に散歩に出かけたり、体調に応じて玄関のベンチで外気浴を楽しんでいる。冬季は、徒歩数分の距離にある小学校の協力を得て放課後の校内を散歩している。現在、歩行状態が不安定なこともあり、今後の対応を検討中である。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関のドアに取り付けている鈴の音で出入りを把握している。また、Ｓ０Ｓネットワークに加入し、交番や地域の人々との協力体制を整えている。現在は、一人で出かける利用者はいない。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、内1回は消防署の指導の下に利用者参加の避難訓練を実施している。運営推進会議の議題に取り上げ、町内会の協力を得ている。また、玄関に非常用のリュックを用意し災害に備えている。	○	夜間を想定した避難訓練の実施を期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日、一人ひとりの利用者ごとに記録している。水分は、１日の食事以外から1000～1500mlを目標としている。副食を刻んだり、水分にとろみを付けるなどの工夫をし、水分量が低下している時は飲み物に蜂蜜などの甘味を加えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街の一軒家を改造しているので、共用の空間は個人住宅の趣きがある。本人がいつでも確認できるように台所の冷蔵庫に家族からの伝言を貼っている。畳敷きの小上がりは、家事作業のスペースとして活用している。廊下の壁には児童からの手紙や利用者の手作りの作品を飾り、季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、大きさや形がそれぞれに異なっており、その特性を活かした居室つくりをしている。家族の写真を壁掛けのように大きく引き伸ばして飾ったり、枕元にメモ用紙や筆記道具を置いて、今までの生活習慣を継続できるようにしている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。